

社会福祉法人 白寿会 令和元年度（2019年度）事業報告

【法人本部】

1. 本部事業報告

白寿苑の施設老朽化にともない計画的に実施しております大型修繕および機器の入れ替えについて、2019年度は、エレベーター機能維持管理、自動扉更新工事、事務機器入替、多床室の間仕切り工事に伴うスプリンクラー増設工事、電話交換機更新、災害時用の非常用電源回路、及びテレビ回路変更工事は完了致しました。

その他で計画しておりました、PHS 交換機工事は、台風 19 号による生産工場の被災及びこの度の新型コロナウイルス感染対策の為に実施を延期いたしました。また、本館設備修理の循環浴槽用オゾン発生装置電源交換は必要部品が調達できず中止致しました。

職員確保については、これまでの取り組みに加え、2019年5月に「ユーザー認定企業※」として認められたことにより、参加できる無料求人説明会が増え、とくに介護職についてはほぼ予定採用数を確保できました。入職者が35名（特養19、デイ7、有料3、地域包括3、ケアハウス2、ヘルパー1）、2020年度4～5月入職者が6名（特養5、地域包括1）となっております。但し、長期間求人中の職種が残っており、介護職員のさらなる確保も必要なため、今後もさまざまな工夫と努力が必要となります。その他、広報媒体の充実（小冊子の作成、Instagramの開始）、新しいインターンシッププログラムの企画実施も進めました。

働きやすい職場づくりの一環として、職員のお子さんやお孫さんの「職場参観日」イベント、産休・育休中職員を対象とした「come-backサロン」も継続実施し、これらの取り組みは2020年2月に認められた大阪市女性活躍リーディングカンパニー認証につながっています。

2年目となる近隣企業主催イベント「北加賀屋ワンダーラボ」への参画については、2019年度も大変好評で、130名を超える来苑者がありました。

※ユーザー認定制度…若者の採用・育成に積極的で、雇用管理の状況が優良な中小企業を厚生労働大臣が認定する制度

【施設部】

2. 特別養護老人ホーム白寿苑

2019年度の特別養護老人ホーム白寿苑におきましては、入所者平均年齢は88.8歳、平均要介護度は4.1、平均入所期間は54.8か月であります。

医療機関への入院者実人数は 44 名。死亡退所者数は 19 名、医療依存度が高く療養上の理由から帰苑困難となった退所者は 3 名となりました。

特養として注力し取り組んでいる看取り介護については 14 件あり、死亡退所者全体の 73%となりました。今後も一層高まる看取り介護のニーズに応えていくことは勿論のこと、入所者、ご家族からの安心と信頼頂けるサービスを提供できるよう、各職種のスタッフ一人ひとりのスキルを高める取り組みを強化し、「利用者のために」との基本理念、介護理念に掲げる「いっしょに過ごす暮らし」を実現するため積極的に取り組んで参ります。

最後に、介護職員の新入職、定着率の向上、業務の ICT 化を含めた業務整理改善を行い、新規入所を積極的に進め稼働率の向上に努めております。現在、新型コロナウイルス感染症予防のため面会制限を含め、様々な制限がある中ですが、サービスの質を担保としたサービスの提供に努めて参ります。

3. 短期入所生活介護

2019 年度実績は次の通りです。

月平均稼働率は 76.2%、最高は 2019 年 9 月の 86%でした。2018 年度より平均稼働率は 4.4%アップしました。

新規ケースの受け入れは 44 件でした。

加算要件となる利用者全体に占める中重度利用者（要介護 3 以上）の割合は平均 72.4%となっています。

大阪市認知症等高齢者緊急ショートステイ事業居室確保業務も引き続き受託し、10 件の緊急受け入れを行いました。

4. ケアハウス白寿苑

2020 年 5 月 1 日現在、入居者数 29 名です。平均年齢は 87.2 歳、要介護認定を受けている入居者は 27 名です（その内、要支援…10 名、要介護 1…6 名、要介護 2…6 名、要介護 3…3 名、要介護 4…1 名、要介護 5…1 名です）。

①行事については、中止・回数を減らすなど検討し、お花見（4 月）・すき焼き（11 月）・初詣（1 月）・鍋料理（2 月）を実施しました。

歌の集い、居酒屋、パッチワーク教室、カラオケサークルは、定期的に継続して実施しました。また、あらたに、フレイル予防の取り組み（体操など）を月 1～2 回程度始めましたが、3 月以降は新型コロナウイルス感染予防のため、全ての行事・サークル活動を中止しています。

②個別の援助計画を作成しました。

5. 白寿会診療所

(1) 多職種協働

情報共有はPC中心に行えるようになりました。また、南大阪病院の認定看護師の方に協力いただくなど、ケアについては施設内だけで対応することなく広く協力を求め、よりよいケアのあり方を今後も検討していきたいと考えています。

(2) 皮膚症状の改善

医師や認定看護師と協力しながら対応してきましたが、課題としては、ターミナル期における末梢の血流障害による皮膚症状（壊死や炎症）への対応です。改善が見込めないため、苦痛の緩和がメインになります。最新情報を取り入れながら対応を検討していきたいと考えます。

【在宅部】

●介護サービス事業課

6. デイサービスセンター白寿苑

◆一般デイサービス

2019年度は、毎月の利用平均延べ人数（総合事業含む）は542名、1日の利用平均は21名です。2020年3月の登録者数は83名となっております。

2020年2月から体験利用サービスを開始し、5名の申し込みがありました。そして、5名の皆様全員にデイサービスの内容を満足して頂き、本利用に繋げることができました。引き続きスムーズに問題なく利用して頂けるように、広報活動と契約を勧めていきます。

デイサービスの記録物に関しては、タブレット等ICT化を行い、不要な紙媒体を減らすことができました。職員も順応しております。

2020年度は、利用者個別の生活課題に応えられるような、機能訓練やレクリエーションを企画していきたいと考えております。

◆デイサービスぽかぽか

2019年度は、毎月の利用平均延べ人数239名、1日の利用平均は9.2名でした。登録者数は25人となっております。2019年6月から定員を12名に変更した結果、11月からは継続して月平均10名を超えている状況です。

2019年度の寺子屋教室では、職員1人ひとりがケアの方法を考え、悩み、利用者個々にあった課題内容を提供することによって、個別性を大事にすることができました。そして、Youtubeを使った体操等については、高評価を頂いています。これからもICT化を加速し、ケアのヒントを得ていきたいと思えます。

また、12月に地域運営推進会議を開催し、新たな地域代表者様と取り組みを共有することができ、貴重なご意見も頂けました。

7. ヘルパーステーション白寿苑

◆介護保険サービス

2019年度、介護保険サービスに関しましては月平均利用者数は23.4人、平均訪問回数179.5回で職員一人あたりの稼働状況に変化はありません。要介護者と要支援者の割合も7:3と以前に比べ要介護者が増えています。新規ケースが7件あり、ほとんどが要介護者で、身体・身体生活が77%。生活のみが23%と全体としては身体の割合が増えてきています。

今年度、大阪市の実地指導がありました。大きな指摘事項はなく加算方法などの指導をいただきました。

◆障害者総合支援法サービス

(1) 実績について

総合支援サービスに関しましては次の通りです。

障がい別の割合は以下の通りです。

障がい別	身体障害	知的障害	精神障害	重度障害
割合	19%	27%	46%	8%

支援内容の割合は以下の通りです。

支援内容別	身体介護	家事援助	通院介助 身体伴う	通院介助 身体伴わない	重度訪問	移動支援	重度訪問
割合	15%	25%	17%	0%	9%	13%	21%

(2) 事業内容について

利用者様との関わりが長くなるにつれ、家族とのコミュニケーションも大切になり、介護が家族の生活にどのような影響を与えているかを把握し、家族の精神的な疲労や負担を軽減してもらえるように支援し、介護に対して自信を持って頂き一緒に頑張る努力をしてきました。

今後も丁寧なサービスを心掛け、家族のニーズ、本人のニーズを合わせた個々の支援方法を各機関に相談、連携して行っていきます。

8. 有料老人ホームつむぎ苑

2019年度のつむぎ苑の実績といたしましては、平均稼働率は88.8%。年度を通じた入居率の低下が影響し、稼働率9割をやや下回る結果となりました。収益においても、約70万程度の減収となっております。引き続き、各部署、地域関係機関と連携を図り、利用者獲得に努めてまいりたいと思います。

一方、平均要介護度が 2.3 と昨年度と比較すると 0.4 上昇しており、現場の介護職にかかる負担が増加しております。これに伴う介護職の離職率の上昇が危惧され、ICT等を使った業務の効率化等、介護負担の軽減に取り組んでいるところです。また、介護現場への負担は、ご利用者へのサービス低下と直結するため、ご利用者への満足度を図るためアンケートの実施、懇談会等を通じたつむぎ苑の現状を細かく丁寧に説明し理解を図るとともに、引き続き、ご利用者からの率直な意見をできる限りサービスに反映させていきたいと考えております。

		総額	介護サービス費	自費サービス
請求額	2018 年 度	¥112,155,516	¥57,725,249	¥152,460
	2019 年 度	¥111,470,940	¥57,696,755	¥182,457

●相談支援課

9. 玉出地域包括支援センター

◆地域支援事業

認知症強化型地域包括支援センターとして区内の地域包括支援センターをはじめとする相談・支援機関との連携の元、地域の医療・介護のネットワーク構築、認知症施策の具体的な活動を推進しました。

・玉出地域包括支援センター実績

総合相談件数 6283 件（昨年 6002 件）、権利擁護虐待対応実件数 5 件

介護支援専門員支援 917 件（昨年 990 件）、はつらつサークル（独自事業）・100 歳体操事業を展開しています。

地域交流事業（みんなの居場所、包括サテライト事業）延べ利用者数 1253 人
今年度は地域活動連絡会を初開催し、活動拠点から見えてきた地域の課題を

共有することができました。

・認知症強化型地域包括支援センター実績

区内地域包括支援センター地域ケア会議後方支援・・・ 8 件

認知症推進代表者会議、実務者会議・・・合計 11 回

認知症対応力向上研修・・・見守り声掛け訓練など

認知症啓発講演会（新型コロナウイルス感染症 拡大防止のため延期）

認知症施策にかかわる会議、会議の参加、認知症カフェの後方支援など
区の認知症施策の後方支援として対応。

◆介護予防支援事業

介護予防サービスは、利用者総数 6137 件（昨年度 6573 件）、内、地域包
括支援センター延べ実績 498 件（昨年度 678 件）、一部委託 5639 件（昨
年 5895 件）で対応しています。

自立支援型ケアマネジメント検討会議の開始から 1 年が経ち、本会議、小
会議を通して見えてきた課題をケアマネジャーと共有することで、自立支援
と重度化防止の意義について深めることができました。

10. 認知症初期集中支援推進事業（にしなりオレンジチーム）

開設から 3 年 4 ヶ月が経過、『ほっと！ネット西成』（区認知症ネットワー
ク会議）に参加する関係機関との連携も強化されています。また、多職種連携研
修等での事例検討会や情報交換を通じて、地域包括ケアにおける各々の役割と
課題を共有しています。個別ケースでは金融機関からの相談が増加、今年度リ
ニューアルしたホームページにアクセスした親族からの相談もありました。

チーム員医師、及び認知症疾患医療センターとの連携は個別ケースにおける
鑑別診断では欠かすことができません。この強い医療連携を軸に、区内の医
院、及び認知症サポート医との連携にも一層取り組んで参ります。

広報啓発活動では、各種講座での事業説明、店舗への広報、認知症カフェの
後方支援を推進します。また、各地域包括支援センターや生活支援コーディネ
ーター等と協働して区版認知症ケアパスの作成準備も進めていきます。

2020 年度当初より新型コロナウイルスの感染拡大による活動縮小の状況では
ありますが、感染症対策に配慮して、訪問や関係機関との連絡調整を実施しま
す。

主な実績

	2019 年度	2018 年度
相談実績数	68	47
相談実件数	52	38
関係者会議	3	3
地域ケア会議参加	14	5
広報啓発活動	46	76

11. ライフサポートセンター白寿苑

ライフサポートセンター白寿苑は地域の居宅介護支援事業所、医療、地域包括支援センターと継続して相互の連携を図ることができました。

今回は看取りケースが多く独居の方の看取り支援を積極的に受け入れました。支援を行う中で結果的に職員の看取りの意識も高くなりました。また地域の医療（医師、訪問看護）とも連携ルートを独自で確保できたことにより看取り受け入れ体制を構築することができました。今後も医療との連携をして支援を受け入れて参ります。

事業所運営については、実習指導継続及び主任介護支援専門員（管理者要件）も継続実施しております。現在はコロナウイルスの影響により実習が中止となっており、再開時には研修の受け入れを行い、事業所運営維持に努めて参ります。資質向上については、個人が目標設定を行い、ケアマネジャーとしてスキルアップするため外部研修に参加して努めて参りました。研修参加後は会議等での周知を行い、各ケアマネジャーもともにスキルアップを行うことが出来ています。

指導対策としても運営基準減算にならないよう日頃からの積み重ねで書類管理を行うことが出来ています。引き続き徹底して書類の管理を行います。

収益

2019年度 月平均件数：132件／月（対前年比101%）

2019年度 平均報酬：1,791,023円／月（対前年比101%）

（初回加算平均3,33件/月）

12. 相談支援事業はなめ

（1）事業内容及び実績について

2019年6月末に非常勤職員が退職して以降は、相談支援専門員1名（兼務）で稼働しました。人員減になりましたが、利用者にご負担をかけないよう事業所内で引継ぎを行っています。

利用登録者数は、月平均33.5名で前年度より約3名増加していますが、請求件数は月平均27.5名と前年と同数です。「利用者の状況確認や支援内容の調整等を手厚く実施したことを評価する為の加算」は、前年度10件→34件と大幅に算定件数を増やしています。しかしながら、基本報酬が概ね1割引き下げになったことで、収益は前年度の92.5パーセントと減少しました。

新規依頼は6件で、行政の選定による依頼は3件です。新規依頼件数の回復に向けサービス事業所や医療機関との連携強化に取り組んでまいります。

体制加算算定要件研修や現任研修の受講を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり修了することができませんでした。引き続

き各種研修に参加し、利用者に必要とされる質の高い事業所を目指して研鑽を積んでまいります。

【白寿会研修センター】

13. 喀痰吸引等研修事業

当事業は、近隣地域の社会福祉法人ジー・ケー社会貢献会、特別養護老人ホーム山愛の三者が協働して実施しており、より充実した研修にするべく、研修実施委員会での検討、講師陣を中心とした指導方法や進行方法等についての検討を深めております。

2019年度は基本研修を5月14日～7月30日（11期）に実施、参加者が8名、そのうちの6名が全課程を修了しました。基本研修修了後、各所属施設で実地研修受講中（第4期から2020年3月末現在）が14名（退職者除く）となっています。